

The Learner

Doshisha International Academy, Elementary School

February
ISSUE



February, 2020

Volume 99

Message from the Vice Head of Schools

【PYP Exhibition 2020】

本校が国際バカロレア機構（IB）より、PYP 認定校として正式に通知をいただいたのが、昨年（2019年）の1月でした。この2月に入り、認定からちょうど1年が経過したことになります。同志社国際学院初等部ではそれまでも、「探究の学び」を重視し、バイリンガル教育により国際感覚を身につけ、コミュニケーション力を育むとともに「探究の学び」による、創造性や論理性、思考力の向上を目指して参りましたが、PYPの認定により、さらに一歩進んだ取り組みを始めた1年でした。IBの教育プログラムには、特徴的な取り組みがいくつもあります。根底に流れているのは、これからの地球市民として「より良い平和な世界を築くために貢献できる人材育成」であり、「全人教育」です。そして、それを実現する為のプログラムとして、教科横断的な学びや児童が主体となる学びが重視されています。特に、これまで子どもたちが探求型学習で培った様々な力を卒業研究発表会として全校規模で開催する PYP Exhibition は、学びの成果を発表する場のみならず、アクションに繋げる場として IB 校では大きな意味を持つ取り組みとして位置づけられています。



その Exhibition が本年度も1月30日31日に開催されました。今回も Central Idea である「人々の情熱や才能は、社会に貢献するための原動力となる。」を基に、児童一人ひとりの興味・関心と社会問題を関連させた研究発表会が、6年間の学びの集大成として開催されました。この発表会には、本校の1年生から5年生までの在校生も参加し、6年生のいろいろな分野に及ぶ研究に熱心に耳を傾けるとともに、何年か後の自らの姿を重ね合わせ、PYPの学びが受け継がれていく場となりました。また、多くの保護者の方々をはじめ、同志社の関係者や外部からの教育関係者、地域社会の方や本校の教育に関心のある一般の方など多くの方々に来校いただき、学びの共同体の場としての Exhibition になりました。Exhibition

をやり遂げた6年生を称えると共に、保護者の皆さん、メンターの皆さん、そして様々なかわりを持っていただいた多くの方々に感謝いたします。有難うございました。IBの学びの中に【Learning Community】という考えがあります。これは、同志社国際学院に関係する子どもたちはもちろんのこと、全ての大人たち（教員・保護者）にも共有され、学びの共同体を形成するというものです。今後とも、学習者、教員、地域社会、そして保護者の方々も含めた皆が手を取り合い、本校の教育が学びの共同体として高まっていければと思います。



【新型コロナウイルスに対する対応】

2月に入ると、立春を迎え、春の訪れを告げるニュースが耳に入ってくるのですが、ただ今年に関しては様子が違ってきています。1月中旬ごろから、新型コロナウイルス感染症についての報道が増え、2月に入るところには、世界的な感染拡大への警戒から、感染の拡大阻止のための話題がその主役になってきました。我々は、これらの動向を注意深く見守ると共に、正しい知識と正しい情報のもと、感染予防の適切な行動をとっていかねばなりません。1月末には本校から「新型コロナウイルスへの対応」について案内いたしました。関係機関のHP情報などをご覧になって、最新情報を確認いただきますようお願いいたします。本校でも大学や関係機関と連携し、場合によっては、感染拡大防止のため、更に踏み込んだ対応をする必要が生じることも十分予想されます。その際には、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。また、お子様の体調がすぐれない際には、決して無理をせず、ご家庭で休養をとっていただき、発熱や咳などがある場合は医療機関での診断をお願いいたします。

副校長 城 恵市





キリスト教 教育テーマ

2月：愛 February：Love

「人を裁くな。あなたがたも裁かれないようにするためである。」

(聖書協会共同訳 マタイによる福音書7章1節)

小学生の頃から推理小説は好きな方でしたが、最近になって私がおもしろさに目覚めた古典的推理小説があります。それは、イギリスの作家G・K・チェスタトンが書いた「ブラウン神父シリーズ」です。作品は全て短編なので、今後主人公の神父さんがどのような事件に遭遇していくのか楽しみにしています。

この作品が他の推理小説と異なるところは、名推理で事件を解決するのが職業としての刑事や探偵ではなく、教会の神父さんである点です。彼の推理力は長年人々の告解（自分が犯した罪を、聖職者への告白を通して神に赦しと和解を請う信仰上の行為で、カトリック教会では赦しの秘跡とも呼ばれます。）を聞き続けてきたことにより培われたもので、人一倍他者の心の動きに敏感であり、実際の犯罪の手口もプロより早く見当をつけてしまうのです。しかしながら彼の目的は犯人を捕まえることではなく、あくまでも相手の魂の救済です。名推理で犯人を追い詰めた後は、その人が自らの罪を認めて反省し、警察に自首するまで、とことん説得を試みます。そしてそのためには「このままでは地獄に落ちますよ。」と、神父にのみ許される脅し文句を使うのです。作品をまだ読んでいない人に犯人を教えるのは推理小説のタブーなのですが、「神の鉄槌」という編では、自分の不道德な兄を赦さずに手をかけてしまう教会の牧師が登場します。手をかける、と言っても直接殴り掛かるとかではなく、日ごろ仕事場にしている教会の塔の、一番高い所にあるバルコニーから小さなハンマーを落とし、地上に落ちる頃にはその重力で最大の凶器と化した物体が、自然と兄に命中するようにしたのです。ブラウン神父は彼に語り掛けます。「いくらお祈りのためとはいっても、こういう高い場所にいるのはなんとなく危険な気がしますね」「高みというやつは、下からながめるものであって、そこから見おろすものじゃなかったんですね」「この世を裁き、罪人を打ち伏せることが自分に許されているとその男は考えたのです。そんな考えは、ほかの者と一っしょに床に跪いていたならば、とうてい思いつかなかったでしょう…」

旧約聖書の創世記には「塔の頂は天に届くようにして、名を上げよう。」と考えた民衆が、その驕り高ぶった心のゆえに神に言語を混乱させられ、全地に散らされてしまう物語があります。また新約聖書のマタイによる福音書には、悪魔がイエス様を非常に高い山に連れて行き、世のすべての国々とその栄華を見せた上で、自分をひれ伏して拝むよう誘惑したと伝えられます。人間にとって「高みへ上る」ことは、「魂が墮ちるかもしれない」危険を伴う行為なのかも知れません。

Christian Education Committee 石川眞弓

<お知らせ>

①2月のおにぎり献金は、2月12日（水）です。

②2月19日（水）にゲストをお迎えして聖書の会を開きます。事前申し込み不要ですので、どなたでもご参加ください。

講師：堀井 忠氏（社会福祉法人同胞こども園園長・日本キリスト教保育所同盟国際交流事業バン格拉ディッシュ支援メンバー）

※氏は毎年、本校きずな祭で行われるバン格拉ディッシュ募金の収益を携えて現地へ赴き、奉仕活動をされています。



国語の教科書教材から本へ ~ロングセラーを読んでみよう『お手紙』から~

2年生の国語の教科書には『お手紙』というとても楽しい物語があります。これは1972年に日本で発売されて以来のロングセラーの「がまくんとかえるくん」の物語の4冊のうちの1冊、『ふたりはともだち』の中に収められているお話で40年以上も愛され続けている幼年童話の傑作です。1冊に5話、4冊で計20話の素敵なお話が収められています。



この本の翻訳を手掛けられた三木卓さん(『鶉』で芥川賞を受賞されている作家さんです)は、原書を初めて読まれたとき、(なんて上質な本だろう!)と思われたそうです。とてもユーモラスだと思われ、がまくんとかえるくんのやり取りが実に幼児的で憎めなくてニコニコしながら読まれたそうです。(絵本ナビより)

<https://www.ehonnaivi.net/specialcontents/contents.asp?id=416>

巷に溢れている本に比べて、この本の絵は地味だし、そのうえ「がま」や「かえる」が主人公なんて、売れっこないと考えられたそうです。

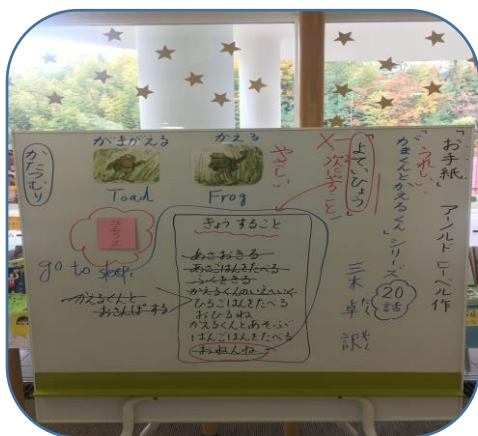
実際に図書館にいとレオ・レオニ作品などと同様に、大人が手渡さなければなかなか子ども自ら手を伸ばしてくれない本でもあります。だからこそ、子ども達に関わることでできる大人が手渡さなければならぬ本のひとつであると思います。

そこで、LC(リテラチャーサークル)の時間に図書館にやって来てくれた2年生に教室で学んだ『お手紙』を踏まえて、「がまくん」と「かえるくん」のキャラクターを押さえたうえで、シリーズの他の本に収められている『よていひょう』を学習しました。今日することを書いた「よていひょう」を考えリストにまとめて紙に書いたがまくんですが、なんとその紙が風に飛ばされて無くなってしまいます。そのため、今日は何もすることができないとおちこんでいるがまくんをいつものようにかえるくんが、そばで一緒に優しく見守りささえます。子ども達と

一緒にまさに三木卓さんが言われている「ユーモラス」について考えました。

また、日本語の表現から英語ではどうだろう?と翻訳逆バージョンで想像して原本に当たってみたりもしてみました。家族と一緒に読んで感想を共有すると楽しい本でもあります。

(司書教諭 上里 久美)



2月の主な行事・予定

1	Sat	
2	Sun	
3	Mon	Unit6(week3) 同志社女子大インターンシップ開始
4	Tue	G5 ゲストティーチャー
5	Wed	研究会(午前授業)
6	Thu	
7	Fri	G4 ゲストティーチャー
8	Sat	
9	Sun	
10	Mon	Unit6(week4)
11	Tue	立石杯英語大会 建国記念日
12	Wed	委員会
13	Thu	G2 校外学習
14	Fri	タレントショー
15	Sat	編転入試
16	Sun	
17	Mon	Unit6(week4) 同志社女子大インターンシップ受入終了
18	Tue	G5 幼稚園交流
19	Wed	クラブ
20	Thu	G5 児童国際中学校見学会 (PM)
21	Fri	
22	Sat	土曜参観・学期報告会(午前授業)
23	Sun	天皇誕生日
24	Mon	振替休日
25	Tue	Buffer week
26	Wed	クラブ
27	Thu	
28	Fri	
29	Sat	

3月の主な行事・予定

3/3	6年生を送る会
3/6	震災を憶える礼拝
3/10	前日準備 G6午前授業
3/11	卒業式(1~4年自宅学習日)
3/13, 16, 17, 18	冬学期末カンファレンス 午前授業
3/19	修了礼拝